

へるか、相當の成績を挙げ居れり、分析は其設備なき故、先般工業試験所に委託せり。

緊張力竝に押曲試験成績

試験執行年月日	毎半方時に對する緊張力、噸	長さ十二時に對する伸%	冷質屈曲の良否	記事
大正四年十月十六日	三一・二六	二八・一	執行せず	
同	三〇・八二	一八・八	同	
同	三〇・三四	一八・八	同	
同	三一・〇〇	二八・一	良	甲分析表
同	三一・〇〇	三一・三	執行せず	乙次出
同	三〇・六〇	一八・八	同	
同	三〇・九〇	二三・四	同	
同	三〇・八〇	二六・五	良	
同	三〇・四五	一八・八	同	
同	三〇・三〇	二三・四	同	
同	三一・六〇	三一・三	同	

分析符號	炭素%	硅素%	滿庵%	燐%	硫黃%
甲	〇・二〇	〇・二二	〇・三七	〇・〇七	〇・〇七
乙	〇・二六	〇・二五	〇・六五	〇・〇八	〇・〇八

目下の成績は先づ右の通りなるか日々研究せる故、漸次良好の製品を世に出すことを得へしと信す（大正四年十二月二十二日稿 箕田亥三次）

●支那に於ける鐵鑛の保護條例と獎勵法 農

商部にては國內鋼鐵の需要日に増加するに、其製鐵事業の如きは僅かに漢陽鐵廠有るのみにて多數の需要に供ふるに足らず、凡て外國より輸入を仰ぎ居るため、此種の事業には特に保護條例を規定して獎勵せんとて議案を作製し、政事

堂會議に提出したれば不日政府の許可を得其實施を爲すべしと云ふ、今其内容を見るに左の如し。（支那鑛業時報）

- (一) 資本金五萬元以上の製鐵公司在りては、政府より委員を派して其内部の事情を調査し、組織合格と認めたるものは此條例に依りて保護す。
- (二) 公司は毎年政府の訓令に依り精製品の若干を提出す其種類は農商部の指定に依るものとす。
- (三) 政府は監査員一名を派し該公司の帳簿及工作の検査を行ふことを得

(四) 毎年の營業決算に於て其獲る所の利益金六厘に及ばざるものは政府に於て之れを補足す

(五) 公司の製品にして外國に輸出する時は特に輸出税を免除す

(六) 以上の保護條例は滿二十箇年を以て限度と爲す

●八幡製鐵所新設五十噸平爐成績 八幡製鐵所にては大正五年一月十七日より新設五十噸平爐の操業を開始したるに結果極めて良好なりとの吉報ありたり

●製鐵所擴張資源 鐵類供給不足の事情よりして政

府は製鐵所の擴張を以て最早一日も猶豫すべからずとなし農商務大藏兩當局者の間に協議を遂げ、愈々大正五年度追加豫算として議會に提出する由なるか、其資源に關しては未だ決定せず種々推問を重ねつゝありと云ふ、今各新聞紙所載記事に據りて其間の消息を攷ふるに、所謂第三期擴張

の總費額は三千五六百萬圓にして、之を五ヶ年或は六ヶ年に分ちて支出し、其完成の曉は五十萬噸を製出する筈、而して大正五年度に支出する分は約六百萬圓なるか、其經費の出所如何といふに一は公債募集の方法なり、二は製鐵所會計に根本的改正を斷行し、獨り運轉資金のみならず固定資金も亦た融通證券の發行によりて補足し得る方法を執るに在り、されと大藏當局は第一の公債案には迎も同意せざるべく、第二案の會計法の改正亦た容易ならず、茲に於てか第三案として益金計上の説あり、蓋し製鐵所にて擴張計畫を立てたる當初は、鐵價も現今の如く騰貴せず、由て大正五年度益金として約五百萬圓を計上したるに止まるか、現在の如く市價奔騰して製品賣下價格も三倍以上に達せしに付ては、益金實に數千萬圓に上るべく、當局者は其中先づ五百萬圓計りを五年度益金に増算し、これにて收支双方追加豫算として提出する都合なりと。

●鐵鋼に關する新企業 各新聞所載記事を掲載すれば左の如し。

三井の製鐵計畫 北海道炭礦汽船會社にては一月三十日總會に於て副業中の一部分を賣却し得る承認を求むる筈の由、これ三井にて製鐵業勃興の機運を察し、これに着手せんとするものにて、先づ該會社所有の輪西製鐵所を分離せしめ、所要鑛山を合し更に資本を投して一大製鐵會社を設立する希望なりと云ふ、其引受後の經營に關しては三井にて

目下各方面に亘り鐵鑛調査中にて、既に決定せるものとしては無きも、故橋本忠次郎氏所有虻田及俱知安兩鑛區に對しては内々交渉中の由、而して其鑛區の様子を聞くに、俱知安地方に産する褐鐵鑛區は鑛層時に五十尺に達するものありて、其面積も數百萬坪に及び、地質調査所の報告に據るも約七八百萬噸は優に採掘し得べく、一年二十萬噸を採るも三四十年は繼續すべしと。(東京朝日記事抄)

●山陽製鐵會社設立計畫 松島誠氏が數年來經營せる木材乾溜業を擴張すべく、廣島縣比婆郡高野山村にて平面六千町歩の山林を利用せんとて計畫中、端なくも同山林中にて砂鐵鐵滓の良鑛を發見し、是れを乾溜業の副産物たる木炭を利用して製鐵する時は、優に市場に供給し得る見込立ちたる由にて、神戸鈴木商店の金子直吉氏等の賛成を得山陽製鐵株式會社を組織すべく、資本金は未決定なれとも三百萬乃至五百萬圓なりと。(十二月二十二日大阪毎日記事抄)

●久原氏の製鐵事業 大阪の久原房之助の計畫せる製鐵所は既に福岡縣戸畑町名古屋崎附近一帯の土地十六七萬坪の買収を了し、引續き十二三萬坪の交渉中なるか、大體に於て其買収成立せる如く、愈々買収の上は、二千萬圓乃至三千萬圓の大資本を投して理想的に事業を開設すと云ふ、而して第一期事業の開始までには一年半乃至二年を要する見込にして、十ヶ年計畫を以て豫定の大事業を完了する筈なりと、因みに戸畑町にては代表的製鋼大事業か同地に設